

調べものの部屋には、中高生が調べものをするのに役立つ本など約1万冊があります。その中から2か月ごとにテーマを決めて選んだ本を、ウェルカム展示として入口で紹介しています。

※このリストは、展示時点で担当者が選んだものであり、テーマに関する網羅的な資料リストではありません。

さち
テーマ：**海の幸**

「海の幸山の幸」という言葉には、自然が育んだ恵みをいただくことのありがたさが感じられます。養殖技術が発達し漁獲が管理されるようになって、海が生み出すものを人が完全にコントロールすることはできません。おいしい海の幸をいただく幸せを大切にするにはどうしたらよいか、本を通して考えてみませんか。

▶リストの見方

No.	書名 (あれば巻号) 著者名(出版社, 出版年) 【調べものの部屋請求記号】	【 】の中は、調べものの部屋のどこにあるかを示す請求記号 (日本十進分類法を使用) です。
-----	-------------------------------------------	-----------------------------------------------

▶海産物いろいろ

1	魚と海そう(くらべてわかる食品図鑑; 4) 家庭科教育研究者連盟 編著, 田村孝 絵 (大月書店, 2007) 【596】	マグロとカジキマグロ (メカジキ)、コンブとワカメなど、ちょっと似た海産物を並べて比較しながら紹介しています。
2	すし図鑑 藤原昌高 著 (マイナビ, 2013) 【596.2】	海の幸と言えば「お寿司」を思い浮かべる人もいるかもしれません。寿司の写真と一緒に魚介のものとの姿の写真を載せ、イカだけでも11種類を紹介しています。
3	海洋高校生たちのまちおこし: コンブとサカナで地方創生 渡邊憲一 著 (成山堂書店, 2017) 【660.7】	自分たちで養殖し収穫したマコンブを使っとうどんやお菓子を商品化したり、卵から育てたヒラメを燻製に加工したり。水産業を学ぶ中で、海の資源をどう生かすかを考え、地域を豊かにする活動に取り組む高校生たちの楽しげな姿が印象的です。
4	海藻の歴史(「食」の図書館) カオリ・オコナー 著, 龍和子 訳 (原書房, 2018) 【664.8】	ワカメや海苔、昆布は日本で古くから食べられ、今でも身近な食材です。世界各地における海藻利用の歴史をはじめ、現代ではスーパーフードとして、また薬や化粧品材料、エネルギー源として注目をあびていることなどが分かります。

▶海の豊かさ

5	森は海の恋人(文春文庫) 畠山重篤 著 (文藝春秋, 2006) 【T-660.4】	気仙沼湾で牡蠣養殖を行う著者は、海の生き物を育むのが森であることを体感し、山に木を植える活動を始めました。森と漁民の古くからのつながり、海辺の鳥たちの姿、フランスの美食を生む森や川の底力、海洋化学から見た海の現状など、海を語る多彩な切り口は、そのまま人の心と自然が本来備えている広がりやを反映しているかのようです。
6	海がわかる57のはなし: おどろきのサイエンス: 素朴な疑問から最新の話まで 藤岡換太郎 著 (誠堂新光社, 2014) 【452】	魚介や海藻など海の幸の育つ海とはそもそも何でしょう。今から約41億年前に地球を覆い、生命を生み育ててきた海のいろいろな面を、57の話題で解説。一見雑学のように見えながら、海の途方もない深さと大きさを感じさせる話題ばかりです。
7	美しいプランクトンの世界: 生命の起源と進化をめぐる クリスティアン・サルデ 著, 吉田春美 訳, 広海十朗 日本語版監修 (河出書房新社, 2014) 【468.6】	プランクトン(水中を浮遊する生物の総称)は海の世界連鎖の基礎で、目に見えない小さなプランクトンを食べて魚や貝が育ちます。その一方、大量発生して海の生き物に被害を与えることもあります。世界各地で採集されたさまざまなプランクトンの美しい顕微鏡写真から、生命そのものについて思いをはせるのもよいかもかもしれません。

▶海の利用と環境

8	ああ、そういうことか! 漁業のしくみ 亀井まさのり 著 (恒星社厚生閣, 2013) 【662.1】	磯に遊びに行くと天然のアワビやサザエを獲ってはいけない理由? あまり知られていない「漁業権」など、公共の海から食料を得るためのルールを説明します。
9	海洋大異変: 日本の魚食文化に迫る危機(朝日選書; 940) 山本智之 著 (朝日新聞出版, 2015) 【663.6】	ウナギ、クロマグロ、サンマなど、私たちの味覚を楽しませてくれる魚貝は、海の変化の影響を受けています。温暖化による海水温上昇、海洋酸性化、ごみや化学物質・放射性物質による汚染など、海に起きている異変を、食の危機という切り口から探ります。

▶日本神話

10	21世紀版少年少女古典文学館 第1巻 古事記 橋本治 著 (講談社, 2009) 【913.2-コジ】	山サチビコは、兄の海サチビコと道具を取り換えて漁をし釣り針をなくしてしまいます。古事記の上巻終わりのほうにある話で、この資料では分かりやすい口語訳で読めます。注によると、「海サチ」の「サチ」とは魚で得た獲物や釣り針などの道具をさすが、魚で獲物をもたらす霊的な力もサチというそうです。P235-
----	--------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

過去の展示の資料リストは、当館HP上の「ウェルカム展示」に掲載しています。(https://www.kodomo.go.jp/use/room/teens/exh.html)